

授業科目		対象学科・専攻	年次	期別
子どもの保健 Child Health		児童教育学科 幼児教育学専攻	1年次	前期
講義・演習・実技・ 実習・実験	単位数	卒業認定	担当教員	
講義	2	必修	安富 雅恵	
概要				
<p>専門職として子どもに関わるには、保健に関する知識と実践が必要である。子どもの健康を守り、健康を増進する積極的な活動でなければならない。その為には、各発達段階における子どもの健全な心身の発育、発達過程を習得することが必須である。また、今日の子どもを取り巻く環境を踏まえ、健康問題や課題について学ぶと共に、家庭、専門機関、地域との連携についても学ぶ。</p>				
到達目標				
<p>(1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について述べる事が出来る。 (2) 子どもの身体発育、生理機能、運動機能、及び精神機能の発達について具体的に述べる事が出来る。 (3) 子どもの健康状態について気付く視点を学び、その対応と対策、予防について述べる事が出来る。</p>				
授業内容とすすめ方				
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション（学習の目的・意義について） 子どもの健康と保健の意義、健康と健康指標 2. 子どもの健康と健康指標、子どもを取り巻く環境 3. 地域社会と保育所 4. 子どもの発育と発達、発育の原則について（各期の身体発育） 5. 生理機能の特徴（臓器の発育、水分代謝、呼吸、循環、） 6. 生理機能の特徴（体温、睡眠、消化、歯） 7. 子どもの健康状態の把握（子どもの健康状態の見方） 8. 体調の良くない子どもへの対応 9. 発育と発達の評価とその診断基準 10. 保護者との情報共有とその方法 11. 子どもの病気の予防と適切な対応（主な病気の特徴と対応、予防について） 12. 保育所によく見かける病気（呼吸器、耳鼻科、眼科、皮膚科、泌尿器科、整形外科等） 13. 保育所によく見かける病気（感染症） 14. 予防できる疾患に対する対策（予防接種、ワクチン等） 15. まとめ 				
テキストおよび 参考文献	<p>テキスト：「保育者のためのわかりやすい 子どもの保健」飯島一誠監修 日本小児医事出版社 参考文献：「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 配布資料</p>			
メッセージ な	<p>子どもの心と体の健康を育むことは、保育の原点です。なるべくニュース、統計等に目を向け、子どもを取り巻く環境や子どもの命について向き合っていきましょう。必ず、復習をして、知識の確認をしていきましょう。</p>			

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について述べる事が出来る。	ほぼ完璧に述べる事が出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	・定期試験 (知識・理解)	70%
(2) 子どもの身体発育、生理機能、運動機能、及び精神機能の発達について具体的に述べる事が出来る。	ほぼ完璧に述べる事が出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	・小レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	10%
(3) 子どもの健康状態について気付く視点を学び、その対応と対策、予防について述べる事が出来る。	幅広い視点から総合的に考えられ、ほぼ完璧に述べる事が出来る。	大きな間違いがなく、基本的なことは述べている。	間違いがいくつかあるが、最低限の基本的なことは、述べている。	殆ど述べていない。	課題レポート (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	20%